

県南養殖漁場底質環境調査

西岡智哉・池脇義弘・平野 匠

魚類養殖に伴う残餌や糞等の排出物（有機物負荷）は水中で分解し、一部は海水交換によって漁場外に流出するが、一部は沈降し、海底に堆積する。本調査は、魚類養殖漁場の底質を調べることによって、有機物負荷の程度を把握し、魚類養殖の効率的な経営に資することを目的とする。

方法

県南4ヶ所（図1-1～4）の湾内養殖漁場において、9月下旬にエクマンバジ探泥器で採泥し、外観を観察した後、試泥を水産研究課に持ち帰り、表層泥のCOD、全硫化物、及び強熱減量を分析した（表1）。

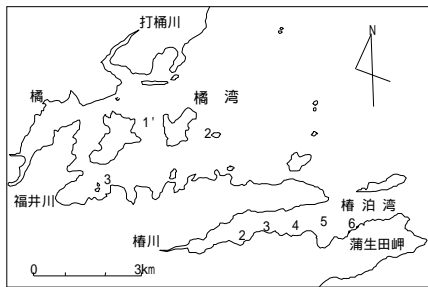


図1-1 橘・椿泊湾調査点



図1-2 浅川湾調査点

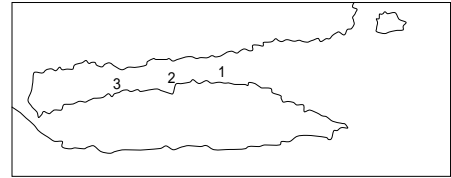


図1-3 那佐湾調査点



図1-4 水床湾調査点

結果及び考察

全硫化物については、各調査点ともほぼ平年並みであった。

CODについては、橘湾及び椿泊湾においては平年並みかやや低め、浅川湾、那佐湾及び水床湾においてはやや高めであった。

強熱減量については、橘湾及び椿泊湾においては平年よりやや低め、他の調査点では概ね平年並みであった。

椿泊湾及び浅川湾においてCODが水産用水基準をやや超過しているが、その他の項目は基準以下であり、漁場環境は概ね良好である。

表1. 県南養殖漁場底質環境調査結果

調査地点	年月日	地点	調査時刻	水深 (m)	泥温 (°C)	乾泥率 (%)	全硫化物 (Smg/g乾泥)	COD (O2mg/g乾泥)	強熱減量 (550 °°%)	外観	浮泥層厚 (mm)	底質の性状		臭気	粘性	
												浮泥	浮泥以外			
橘湾	平成27年9月30日	1'	8:45	13.0	24.4	53.9	0.00	4.39	2.9	泥	5	灰	灰	不明	大	
		2	欠測													
		3	10:18	9.0	25.1	38.6	0.02	18.29	4.4	泥	1	灰褐	灰	不明	大	
椿泊湾	平成27年9月30日	2	9:45	9.0	24.2	71.4	0.00	13.52	1.3	砂泥	1	灰褐	灰	不明	中	
		3	9:37	15.0	24.3	45.8	0.04	24.75	4.4	泥	5	灰褐	灰	不明	大	
		4	9:28	20.0	22.7	38.5	0.05	16.67	5.8	泥	5	灰	灰	不明	大	
		5	9:20	21.0	23.9	43.3	0.17	26.55	5.1	泥	5	灰	灰	不明	大	
浅川湾	平成27年9月29日	6	9:10	24.0	24.3	42.6	0.17	19.95	5.0	泥	5	灰緑	灰	不明	大	
		1	10:00	6.0	25.4	55.6	0.06	22.00	7.4	泥砂	1	淡褐	灰	硫化臭	大	
		1'	10:05	7.0	24.8	49.5	0.12	32.45	9.1	泥砂	5	淡褐	灰	硫化臭	大	
那佐湾	平成27年9月29日	2	10:20	7.0	25.1	70.3	0.01	4.99	3.9	砂	0	灰	灰	不明	小	
		3	10:13	7.0	25.1	61.3	0.06	16.86	6.4	泥砂	1	淡褐	灰	不明	大	
		1	10:53	8.0	25.8	69.8	0.02	5.72	2.8	砂	0	淡褐	灰	不明	中	
水床湾	平成27年9月29日	2	欠測													
		3	11:06	4.0	25.8	66.4	0.04	10.41	2.8	砂泥	1	淡褐	灰黒	硫化臭	大	
		1	11:58	6.0	25.8	58.1	0.06	15.08	6.0	砂	1	淡褐	灰黒	硫化臭	小	
水床湾	平成27年9月29日	2	12:00	7.0	25.8	69.6	0.03	10.72	3.1	砂泥	0	淡褐	灰	不明	小	
		2'	12:07	7.0	25.0	72.1	0.00	2.90	2.6	砂	0	淡褐	灰	不明	小	